

平成24年度 国立江田島青少年交流の家教育事業

## われら瀬戸内探偵団～瀬戸内海の環境を守ろう～ 実施報告書

【趣 旨】 近隣の瀬戸内海岸での生物観察・調査からスタートし、瀬戸内海域へフィールドを広げ、環境問題について考えていく体験的・問題解決的な環境学習を実施する。これらを通して、いま自分達に何ができるかを考え、環境保全・保護に配慮した積極的な行動がとれる意欲・態度を養う。

【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家

【共 催】 江田島市教育委員会

【期 日】 平成24年7月24日(火)～7月26日(木) 2泊3日

【会 場】 国立江田島青少年交流の家

【対 象】 国立江田島青少年交流の家及び周辺海岸  
広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」、瀬戸内海海域

【参加者数】 25名(小学5・6年生)

【講 師】	広島大学大学院生物圏科学研究科	准教授 橋本 俊也
	広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」	職員
	大柿自然環境体験学習交流館	館長 西原 直久
	国立江田島青少年交流の家	企画指導専門職

### 【企画・運営のポイント】

- (1) 参加者の意欲を高め、課題意識をもって体験的・問題解決的な環境学習に取り組ませることを目的として、「瀬戸内海は、どんな海ですか？」という探偵依頼を提示する。
- (2) 探偵依頼に応えるというゴールに向け、全ての活動や調査をまとめていくことができるようにガイドブックを工夫する。
- (3) 近隣の海岸を使った体験・調査については、江田島の海岸や干潟の生き物について詳しく調査を行っている大柿自然環境体験学習交流館館長(理学博士)の西原直久氏に指導を依頼する。
- (4) 瀬戸内海海域での学習では、広島大学大学院生物圏科学研究科橋本俊也准教授による「海洋観測の重要性」についての講義や、広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」でさまざまな海洋観測を行う。
- (5) 初めの2日間で体験・調査を実施し、探偵報告としてまとめる。更に、そのまとめを踏まえ、環境保全・保護のために自分たちができることを考え発表する。また、3日目には、指標生物の観察を通して海岸の現状について考え、前日までの学習を深めるようにする。

【活動の実際】

24日(火) 1日目	25日(水) 2日目	26日(木) 3日目
13:00～ 受付	6:40 起床	6:40 起床
13:30～ 開講式 オリエンテーション	7:10～ つどい, 清掃, 朝食	7:10～ つどい, 清掃, 朝食
14:30～ 海辺の観察	9:30～ 交流の家発 小用港へ	9:00～ 海辺の生き物観察
17:00～ つどい, 夕食, 入浴	10:00～ 豊潮丸での海洋観測	12:00～ 昼食
19:00～ なぞの生き物の観察	15:50～ 小用港着	13:00～ 退所点検
22:30～ 就寝	16:30～ 交流の家着	13:30～ 振り返り, 閉講式
	17:00～ つどい, 夕食, 入浴	14:30 解散
	19:00～ 探偵依頼にこたえよう	
	22:30～ 就寝	



開講式



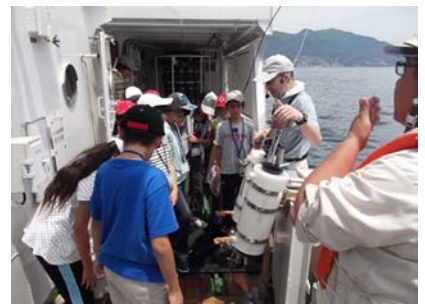
海辺の観察



豊潮丸



豊潮丸での講義



豊潮丸での海洋観測



班でのまとめ



探偵依頼にこたえよう



海辺の生き物観察

#### 【成果】

- (1) 「瀬戸内海は、どんな海ですか？」という探偵依頼を提示することで、参加者は報告することを意識して体験活動や調査を行ったり、講習や講義を聞いたりすることができ、日頃目にしている海について数で捉えたり画像として残したりして科学的に検証していこうとする姿が多く見られた。
- (2) 瀬戸内海に棲むいろいろな生き物に触れたり観察したりすることを通して、自然とふれあう楽しさや感動を味わい、参加者全員が、瀬戸内海を大切にしたいという気持ちをもつことができた。
- (3) 自分たちが環境のためにできることとして、「身近な環境や生き物についてさらに知り、それをみんなに伝えていく」という意欲的な感想があるなど、環境保全に対する意識の高まりが感じられた。
- (4) 探偵依頼に答えるためにグループで模造紙にまとめたり、発表したりすることで、考えを共有したり深めたりすることができた。

#### 【今後の課題】

- (1) 来年度も潮の干満及び練習船の日程を考慮して活動内容を検討していく。
- (2) 本年度は、社会教育実習の期間と重なり、実習生が活動の補助を行った。特に体験・調査の場面では企画指導専門職と分担して活動の補助をすることができ、活動をより効果的なものにすることができた。来年度も、実習生・ボランティア等を活用することが望ましい。